

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : The University of Arizona

留学期間 : 平成 28 年 8 月 7 日 ~ 平成 29 年 5 月 18 日

私が留学していたアメリカ、アリゾナ州は、有名なグランド・キャニオンがあり、広大な荒野が広がる砂漠地帯です。アリゾナ大学が位置する、アリゾナ州ツーソン市内は年間を通して平均気温が非常に高く、雨もほとんど降らないため湿度もかなり低いです。

アリゾナ大学では、新 1 年生の多くは最初の 1 年を寮で過ごし、2 年目以降から各自アパートをシェアし、3・4 人で生活するのが一般的なようでした。私は、前期のみ寮で生活をし、後期は学生アパートで一人暮らしをしました。ツーソンでは、車での移動が一般的で公共交通機関も特に発達しておらず、私は車を持っていなかったため、移動手段はタクシーがメインでした。また、暑く乾燥した気候から、徒歩や自転車移動には限界があるため、時には友人に送り迎えをお願いすることもありました。また、私が前期に住んでいた寮はキャンパスの中心にあり、立地は便利でしたが、寝室は相部屋で、シャワー、トイレ、洗濯機（有料）、キッチンがフロア共有で家賃、光熱費、水道代込みで月々 \$ 700 ほどと少々高めでした。後期に引っ越したアパートは、1 室 3 人部屋（寝室）で各部屋にトイレ、お風呂があり、キッチンとリビング、洗濯機は共有で、家賃、水道代込みで月々 \$ 500 ほどでした。ただ、光熱費、保険代は別途 \$ 50 ほど余分にかかりました。また、私が住んでいたアパートは学校から車で 15 分ほどの距離のところに位置していたため、アパートと学校を往復するアパート専用のプライベートシャトルを通勤に利用していました。食事については、キャンパス内の食堂で食べるかキャンパス周辺のレストランでの食事が一般的でした。私は、体調管理のため、基本的に学校付近のスーパーで買い物をし、キッチンで自炊をしていました。ツーソンは小さい町ですが、アジアマーケットなどもあり、食材の調達に困ることはありませんでした。アパートに引っ越してから、基本的には自炊をして過ごしていました。

私は、日本の大学からの派遣留学という形で 2 年次で単位互換留学をしました。日本での所属が法学部法律学科であるため、アリゾナ大学でもアメリカ法及び、刑事裁判法を専攻しました。派遣留学に応募する際、TOEFL ibt 70 点以上を保有していることが大学側からの条件でした。私は以前に海外経験があり、すでにそれを保有していたため、語学面で苦労することは特にありませんでした。今回の留学では、自分の実力を試すために、現地の大学 3 年生、4 年生が受講する法律の発展科目を多く履修しました。私が履修した講義はすべて大教室で行われ、1 科目 100 人ほど受講する科目がほとんどでした。アメリカの学生の傾向は、積極性があり、自分の意見を講義中にはっきりと述べるというものでした。特に、講義中のグループディスカッションでは皆が積極的に議論しあい、大変質の高い講義を受けることができました。また、講義用のレジュメや板書はほとんどない科目が多かったため、教授が授業で触れた点やディスカッションの内容等を記録し、試験対策に使用しました。前述の通り、語学面での問題は特になかったものの、私が 1 年間学んだ日本の法律とアメリカの法律は全く別ものであったため、制度等の違いに戸惑うこ

とはありました。しかし、アリゾナ大学では、教授と学生の距離感が大変近く、個人面談の時間も多く設けられるため、わからないことがあるたびに詳しい説明をしてもらうことができました。講義の評価の方法としては、学期末の論述試験（70%）、学期中に2度ほど提出するレポートA4紙10枚程度（20%）、出席等の平常点（10%）が一般的でした。現地の学生は、みな講義をまじめに受け、放課後や授業時間外も集まって予習や復習をすることが多いように思いました。そのような環境下で、グループ学習等に参加させてもらったことは、大変いい経験になりました。授業をまじめに受ける半面、プライベートの時間も学習面とは別に充実しており、週末は皆でバーベキューパーティーやショッピングを楽しみました。また、私は学校生活とは別に、アメリカ赤十字でのボランティアを週2回ほど行いました。ここでも、たくさんの出会いがあり、大変充実した日々を送りました。

この留学を通し得たものは、アメリカ法に関する知識だけでなく、学生として積極的な生活を送る方法を学ぶという経験です。この知識や経験を活かし、将来は、法律を使いアメリカと大阪をつなぐ架け橋になれるような仕事に就きたいと考えています。

今から、留学される方には、とにかくたくさんの方に興味や関心を持って意欲的に参加していただきたいです。学校生活だけでなく、アメリカで経験できることにできるだけ多くチャレンジすることで、より豊かな留学生活を送ることができると思います。また、現地で多くの友人や先生、地域の方々と出会い、そのつながりを帰国後も大切にすると良いと思います。